

令和 7 年度中央区立泰明幼稚園経営計画

中央区立泰明幼稚園長 岡部 君夫

- (1) 幼児は安定した情緒の下で自己を十分に発揮することにより発達に必要な体験を得ていくものであることを考慮し、幼児の主体的な活動を促し、幼児期にふさわしい生活が展開されるようにする。
- (2) 幼児の自発的な活動としての遊びは、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習であることを考慮して、遊びを通しての指導を中心として「幼稚園教育要領 第2章 健康・人間関係・環境・言葉・表現」に示すねらいが総合的に達成されるようにする。
- (3) 幼児の発達は、心身の諸側面が相互に関連し合い、多様な経過をたどって成し遂げられていくものであること、また、幼児の生活経験がそれぞれ異なることなどを考慮して、幼児一人一人の特性に応じ、発達の課題に即した指導を行うようにする。

1 園目標 「感じる 気づく つながる 思いあふれる泰明幼稚園」

幼児一人一人がかけがいのない人間として尊重され、幼児期の発達に即した環境の中で心豊かに主体的に生きることができるよう次の目標を設定する。

○かんがえる子	○やさしい子	○げんきな子
---------	--------	--------

2 園の教育目標を達成するための基本方針

- (1) 発達や学びの連続性を踏まえ、生きる力の基礎となる心情・意欲・態度を育成する。
- (2) 地域や家庭との生活の連続性を踏まえ、規範意識や思いやりの心を育成する。
- (3) 幼児期の特性を踏まえ、幼児理解を深め一人一人の発達の課題に応じた指導を進める。

3 目指す幼稚園像

(1) 幼児の成長を認め伸ばす幼稚園

園教育目標の実現の状況を公開保育や園だより、学級通信、園ホームページ等を積極的に活用し、保護者・地域住民に知らせる。このことで、教育活動の成果と課題についての説明責任を果たしていく。

(2) 創意ある活動の充実を図る幼稚園

教育活動の基本となる学級における教師と園児及び園児相互の人間関係の充実を図り、幼児の興味・関心や知的好奇心をはぐくむ教育環境づくりを行う。また、身近な自然や大人との関わり、近隣施設を有効に活用することで豊かな心情を養う。

(3) 幼児の発達や年齢に応じた指導を適切に行う幼稚園

幼児の知的好奇心や情操、対人関係、運動能力は、体験を通して習得するものである。一人一人の発達や年齢、興味関心に応じた指導を計画的に実施し、幼児がのびのびと意欲的に活動できるように、指導記録を丁寧にとり、指導の工夫を行う。

(4) 心の教育の推進に努める幼稚園

基本的な生活習慣の形成を図るとともに、幼児が他の幼児とのかかわりの中で他人の存在に気づき、相手を尊重する気持ちをもって行動できるようにする。また、自然や身近な動植物に親しむことなどを通して豊かな心情が育つようにする。

(5) 異学年の交流を大事にしていく幼稚園

3歳児から5歳児のかかわりを大事にするとともに小学校や近隣園等異年齢交流を計画的に実

施し、多様な感情を味わえるようにする。

(自己表現する 他者への思いや気持ちを理解し関わる 葛藤する気持ちを調整する)

4 今年度の重点目標

(1) 豊かな人間性を育成するために

①道徳性の芽生えの醸成

異年齢交流を通して人間関係に広がりをもたせ、他を思いやる心を育成する。そのために、様々な活動の中で、思いやりを意識させる言葉かけを積極的に行い、他者の思いに気付かせる。

②体験活動を通じて心をそだてる

季節行事、課外活動等を通じて、感動する心、感謝する心、相手を思いやる心を育てる。

③コミュニケーション能力の基礎を育てる

自分の思いを言葉で表現させる活動を繰り返すことによって、他者とのかかわり、心地よさに気づかせる。

(2) 「確かな学力」の向上を図るために

①個に応じた指導の充実

全教職員が全幼児にかかわり、個に応じた指導の充実を図っていく。一人ひとりの幼児の発達状況に応じた興味・関心や思いを大切にし、遊びを通じた体験活動を充実させ、主体的に学び、行動する力を身に付けさせる。

②異年齢交流の充実

幼児の発達特性を踏まえ、小学校や近隣幼稚園との異年齢交流を行事や日常生活において計画的に進める。

③体験活動の充実

遊びを中心とした園生活の中で、自然体験、社会体験、生活体験などの直接的な体験活動の充実を図り、感じたり気付いたりするなどの学びの基礎を育てる。

(3) 健康な体力・安全な生活の素地を育成するために

①体を動かす楽しさの実感

園庭や小公園での体を使った遊びを計画的に行うとともに、安全面に配慮しつつ近隣の公園等を活用し、体を動かすことの楽しさを実感させる体験を積み重ね、運動に主体的に取り組む幼児を育てる。

②コーディネーショントレーニング等を通じた体力の育成

発達段階に応じた運動遊びを計画的に行い、活動の中にコーディネーショントレーニングの要素を取り入れて、バランス感覚や巧緻性、柔軟性などを高め、体力の基礎を培う。また、保護者への啓発も図り、家庭と連携を図り取り組んでく。(家庭教育への啓発)

③安全教育の充実

「自分の命は自分で守る」をキーワードに、震災時に備えた防災教育や事故、犯罪から自らを守るための具体的な方法を身に付けさせる。

(4) 家庭・地域との連携を深めた教育活動の実践

①保護者との連携の充実

行事への参加を促し、保護者とともに幼児の成長の喜びを共有する。また、園行事や日々の活動における幼児の具体的な成長の姿を通して、本園教育に対する理解を深めるとともに、基本的な生活習慣や望ましい食習慣の確立、運動遊びの啓発等は、園と家庭の学びの連続性を保護者に意

識させ、家庭の教育力の育成を図る。教育内容やねらいについては、映像等も活用しより具体的に伝え、教育活動の理解を深める。

②泰明小学校・近隣幼稚園・近隣保育園との連携の充実

泰明小学校、近隣幼稚園との交流を計画的に行い、豊かな人間関係を経験させるとともに、年長者へのあこがれの気持ちや小学校生活への期待をもたせることで、個々の幼児の小学校教育への円滑の接続を図る。

③園だより、ホームページ等による情報公開の充実

園だより、学級だよりを充実させるとともに、保護者会や面談の機会を有効に活用し、保護者への情報公開を積極的に行う。また、ホームページを充実させ、園外への情報提供を積極的に進めていくことで、地域の本園教育活動への理解を促し、園行事の参加などの積極的な協力・支援を働きかける。

5 経営の重点

- (1) 全職員が協働的な経営意識をもって教育目標の具体化に努め、一人一人の幼児が意欲的に活動し、学びを深めていけるように指導を行う。そのため、自己申告及び振り返りに基づく週案の作成により自己点検・自己評価を行い、保育の改善に努める。
- (2) 安全・安心な園づくりをすすめるために、定期的な園の環境確認や、感染症の流行防止に向けた取組を計画的に全職員で行う。また、その状況を、各家庭に発信し、理解とともに協力を求める。
- (3) 教育活動を保護者・地域の方に理解してもらうために園だより・学級だよりの充実を図る。また、ホームページを随時更新し幼児の活動の様子、教育内容を広く周知する。
- (4) 銀座の地域人材を日常の保育に積極的に生かす。そのため、地域行事に積極的に参加し、地域との関わりを深める。
- (5) 教育公務員としての自覚と責任をもち、サービスの厳正・組織への貢献等、社会人・組織の一員として職務を遂行する。
- (6) 保護者による園評価・学校関係者評価を行い、園運営に生かす。
- (7) 配慮を必要とする幼児の対応については、全教職員で情報を共有し、全教職員でかかわり適切な対応を行う。必要があれば、教育委員会との連携を図る。